

参考資料 - 8 河道の安定化対策案検討資料（北海道検討）

現時点で北海道で検討された河道の安定化対策案の概略の評価結果は以下の通りである。

なお、「河川の再蛇行」、「遊水池の設置」、「河道拡幅区間の設置」については、河川周辺の土地所有状況が不明であることから、区間を設定することが出来ず、対策案の評価から除いている。

対策案の評価は、「環境への影響」、「魚類等への影響」、「床止工事費」、「全体土量」、「残土(不足)量」の5項目について行なった。また評価は、「○：2点」、「△：1点」、「×：0点」、「×：-1点」として、必ず項目内で順位を付ける方法とした。

河道の安定化対策の現段階における比較案一覧

対策案	環境への影響	魚類等への影響	床止工事費	全体土工量	残土(不足)量	評価点
多段式床止工 1 基	×			×	×	1
	・掘削土量93,400m ³	・多段式により落差0.3m対応で対応	・施工延長150m	・掘削土量93,400m ³ ・埋戻土量 7,200m ³ 計 100,600m ³	・掘削土量93,400m ³ ・埋戻土量 7,200m ³ 残土量 86,200m ³	
床止工 3 基-1	○	×				2
	・掘削土量57,130m ³	・魚道の設置で対応(落差1.0・1.5・2.0m)	・3 基(落差計4.5m)	・掘削土量57,130m ³ ・埋戻土量23,840m ³ 計 80,970m ³	・掘削土量57,130m ³ ・埋戻土量23,840m ³ 残土量 33,290m ³	
床止工 3 基-2			○	○		2
	・掘削土量62,610m ³	・魚道の設置で対応(落差0.5・1.5・2.0m)	・3 基(落差計4.0m)	・掘削土量62,610m ³ ・埋戻土量 8,470m ³ 計 71,080m ³	・掘削土量62,610m ³ ・埋戻土量 8,470m ³ 残土量 54,140m ³	
床止工11基		○	×		○	6
	・掘削土量9,440m ³	・天端部の形式により魚道の設置は必要ない(落差0.5m)	・11基(落差計5.5m)	・掘削土量 9,440m ³ ・埋戻土量55,160m ³ 計 64,600m ³	・掘削土量 9,440m ³ ・埋戻土量55,160m ³ 不足土量45,720m ³	